

西濃農林事務所の普及活動状況（令和8年8月）

今月の重点活動

■西南濃農業普及事業推進協議会 先進地視察を実施（8月7日）

西南濃農業普及事業推進協議会は、普及事業の効率化と地域農業の振興を目的として各種活動を行っており、農林事務所が事務局を務めている。8月には、後継者育成や地元に根付いた経営について情報収集を行うため、地域の担い手リーダーと共に先進地視察を行った。農林事務所は視察先の提案や受入先との調整を行い、愛知県知多郡阿久比町の有限会社を訪れ、法人代表から説明を受けた。この中でSNSなどにより情報発信し、相手側から商品を買いに来てもらうように心掛けているとの説明や誰でも即戦力となる

ように、色々な作業工程の動画を実際の作業スピードで撮影し、文字入れをしてマニュアル化しているとの話があり、活発な質疑応答が行われた。

農林事務所は、今回の視察で得られた情報が有効活用され、後継者育成や地域内流通の活性化につながることを期待している。



【視察研修の様子】

潜在力をフル活用した生産強化

■下宮青果部会協議会 土壌診断結果に基づく施肥管理指導（8月4・5日）

農林事務所は、下宮青果部会協議会の生産者29名（品目：小松菜、ねぎ、モロヘイヤ等）に対し、土壌診断結果に関する個別面談を開催し、数値に基づく施肥管理指導を実施した。

神戸町下宮地域では耕作歴の長いほ場が多く、石灰やリン酸が過剰に蓄積している事例が目立った。このような場合、必要以上の資材投入はせず、塩基バランスを保つような施肥方法を提案した。さらに、窒素過剰のほ場では次作の基肥を控えるよう助言した。土壌診断は作物の健全な生育だけでなく、コスト低減や環境保全にもつながる重要な取り組みであり、農林事務所では、協議会の全生産者（69名）が年1回は土壌診断を実施するよう、今後も引き続き呼び掛けをしていく。



【施肥管理の個別指導】

■J A 海津茄子部会 遮光資材による実証を開始（8月6日）

海津市内での夏秋なす栽培では、近年の夏の猛暑により「つやなし果（ボケ果）」が多発し、収量・品質に悪影響を及ぼしている。

このような状況の中、J A 海津茄子部会では、地球温暖化に適応する栽培体系転換支援事業（県単）で遮光資材を導入し、7月末から2種類の遮光資材をほ場全体に被せ、高温回避とつやなし果の被害軽減に向けた実証に取り組んでいる。

農林事務所では、8月6日から慣行区を含めた3区において、つやなし果の発生状況調査を開始した。調査日により発生状況に差があるものの、遮光することによりつやなし果が少なくなる状況も確認されている。

農林事務所では、今後も調査を継続し、つやなし果の発生状況と遮光資材の効果を確認する。



【遮光した夏秋なすほ場】

■曾根梨部会、南若森園芸組合 梨の出荷が最盛期を迎える（8月7日）

大垣市では曾根地区・南若森地区で梨を栽培しており、農林事務所は高温対策や適期収穫など栽培管理について指導してきた。今年は、春先が温暖で経過したため平年に比べて開花が早く、その後の生育も順調に進み、大玉傾向となっている。地域の主力品種である「幸水」は生育が1週間ほど早く、8月上旬に収穫最盛期を迎えた。

大垣市における梨の出荷は色々な品種を組み合わせ、10月上旬頃まで続くため、農林事務所は引き続き栽培管理や病虫害防除の指導を行い、良質な梨の生産に向けて支援していく。



【幸水の収穫作業】

■花き バラ I P M推進の取り組み（8月13日）

神戸町は、古くからバラの生産が盛んであり、年間を通じて栽培や出荷が行われている。しかし、夏から秋にかけてハスモンヨトウやオオタバコガなどのチョウ目害虫による食害が問題となっている。

そこで、町内の切バラ生産者2戸のハウスにて、天窗への防虫ネットの設置およびスマートキャッチャー導入によるチョウ目害虫の防除実証を行っており、農林事務所は上記害虫の発生動向を把握するため、フェロモントラップを設置した。今後は月2回、フェロモントラップによる誘殺数を調査し、防除資材の導入効果について確認していく。



【フェロモントラップ設置】

■水稻 「あきたこまち」初出荷式（8月14日）

海津市で生産される「あきたこまち」は県内で一番早い収穫を迎えるため、県産米の消費拡大を祈願した初出荷式が行われた。

農林事務所では、これまで栽培研修、防除指導、適期収穫等の助言を行い、良質米生産の支援を行ってきており、式典で実施された等級検査では無事に1等となった。また、今回の式典では農林事務所長が祝辞を述べ、初物の出荷を共に見送った。

今後、「あきたこまち」に続き、中生・晩生品種の収穫が続くため、農林事務所では、良質米生産ができるよう、適宜、防除指導、収穫等の支援を行っていく。



【式典でのテープカット】

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■カミツレ 出荷作業に立会（7月28日、8月4日）

大垣市薬草組合で栽培されたカミツレの出荷作業が、(農)大垣南の事務所で2日間にわたって行われ、農林事務所は出荷作業に立ち会い、今年の出荷量を確認した。

大垣市におけるカミツレ栽培の歴史は古く、減反政策に伴い40年程前から取り組まれている。現在は長野県の加工業者へ原料供給しており、入浴剤やハンドクリーム、ドリンクなどに加工されている。特に、入浴剤は大垣市のふるさと納税返礼品にもなっている。

7月28日は4kg入りの紙袋で、8月4日はフレコン袋での出荷作業が行われ、出荷量は合計で約3tとなった。

今後も農林事務所は、歴史ある大垣市のカミツレ栽培や産地の維持発展への支援を行っていく。



【カミツレの出荷】